

■川内港久見崎みらいゾーン産業立地ビジョン（案）に関するパブリックコメントの結果について

No.	意見等の内容	回答内容
1	①久見崎エリアは人口減少や高齢化が進んでおり、地元に住んでいる若い年代が非常に少ないので、若い年代が「定住してみたい」と思えるものにしてみらいたい。 ②このゾーンに入る企業の社員について、一部でも地元で生活してもらい、地域活動等に貢献してもらいたい。 ③原発がすぐ近くにあるということで、世間的にはあまり良いイメージがないように感じるが、それを少しでも払拭するものにしてみらいたい。 ④地域資源を活かした取り組み（イベント等）を行い、そういう時だけでも賑わいのある光景を見てみたい。	①～④いただいたご意見については、ビジョンへの反映を検討していきたいと考えております。 ①②みらいゾーンを循環経済モデルの拠点とし、先駆的に取り組むことで、提案型の産業立地を目指すこととしています。次世代の産業を担っていく新興企業や起業家を育成する新しい産業集積や、市民発イノベーションラボの実装など、みらいゾーンの魅力を発信し若い世代の定住や地域活性化に繋げていきたいと考えております。 ③みらいゾーンでは、育成、研究・開発、投資の循環を創出することにより、産業育成、産業創出の仕組み・体制の構築を推進します。ついては、九州大学大学院芸術工学研究院との共同による研究・開発を実施し、その拠点となる施設の誘致を目指します。このような取組や企業の立地をとoshi、みらいゾーンの魅力を発信して参ります。
2	①滄浪地区コミュニティ協議会から「当該用地を活用した地域振興要望等」があることを踏まえて、産業立地ビジョンで示されている企業等が立地することで地元地区の活性化にどのようにつなげていくかについて、地元住民を意識した記述も加えていただきたい。 ②薩摩川内市が循環経済転換に取り組む動機として、「提案型の産業立地を目指す」と記述されているが、提案の対象者として具体的に意識している事業者、研究機関等があればお示しいただきたい。 ③ロードマップにおいて、「イノベーションラボ」、「レジデンスプログラム」の用語が使用されているが、用語の注釈を加えていただきたい。	①地区の皆様からのご意見や本パブリックコメントのご意見等を踏まえ、ビジョンへの反映を検討していきたいと考えております。 ②具体的な事業者や研究機関は、現時点でお示しできません。基本方針にあるように、SDGs、循環経済モデル、先端素材、再生可能エネルギーに関連する事業者等を想定しています。 ③注釈を加えるようにいたします。
3	①私の提案は無電柱化・無電線化です。これらを地中化することです。 近年の雨量・台風や竜巻等は、想定外の災害を生じさせます。そのたびに停電・復旧作業のくり返しです。 無電柱化の利点 ・地域住民の安全の維持（停電に悩まされない） ・交通の安全と円滑な流れ（現在の幅員は狭い。そのため大型車とのすれ違いは不便） ・景観が美しく保たれる。 ②薩摩川内市が目指す将来像「環境や社会課題を見据えた持続的な発展」と掲げてありますように、久見崎みらいゾーンと久見崎地域のバランスが保持される21世紀型未来モデルゾーンとなりますことを希望します。	①無電柱化・無電線化は、ご意見ありましたとおり、防災・景観・交通安全の面からも有効だと認識しております。費用面や関係者との調整等を含め研究検討して参ります。 ②ご意見として承ります。
4	①廃棄物が環境に悪くならないよう公害がないようにお願いします。水が大事、魚、貝類に影響がないように。 ②安心安全な久見崎地区であるように。 ③九州電力、協力会社の民泊、民宿 ④電機関係の会社（協力会社） ⑤鉄工関係の会社（協力会社）	①、②環境基準を順守し、開発・産業立地を進めて参ります。 ③～⑤ご意見として承ります。
5	①病院の立地をお願いしたいです。久見崎近隣の皆さんは、通院に大変苦労しています。年々高齢者が多くなっています。通院するのも精神的、肉体的にも大変疲れて通院しています。 近くに病院があれば本当に気が楽になります。内科、外科、他の科があれば本当に嬉しいし安心できます。	①健康福祉や地域住民等が安全・安心に生活するにあたり必要な機能であると考えております。みらいゾーンでの就業者や定住人口、利用者数が増加することで、地域の活性化に繋がり、農業の後継者問題や福祉関連・交通機関の問題などの改善が期待できると考えています。病院立地の可能性については、このような地域活性化の一連の動きや定住人口の増加から高めていきたいと考えております。
6	①衣料をリサイクルし、どうすれば将来に向かって新商品が生まれ変わるか研究されてはいかがでしょうか。 例えば、雨に濡れない糸とか、簡単に切れない糸とか、塩水に（海水に）切れない糸とか、燃えない糸とか、石より強い糸とか。この内の一つでも決めて、取り組んではいかがでしょうか。 日本の技術を世界に向かって、九州大学さんであれば、私は出来ると信じています。	①本ビジョンの5つの研究テーマの1つに「衣」を位置づけております。いただいたご意見については、ビジョンへの反映を検討していきたいと考えております。

■川内港久見崎みらいゾーン産業立地ビジョン（案）に関するパブリックコメントの結果について

No.	意見等の内容	回答内容
7	①電源立地の地元であるのに、先日の久見崎みらいゾーン（に関する地元説明会）の終り、家に帰るのに歩いていると、暗くこわかった。このように電源立地では、国内で一番暗い地域だと思う。 みらいゾーンと関連ないかもしれませんが、予算を利用して外灯を増やして、もっと明るくして頂くことを望みます。	①夜が暗いというご意見は多くいただいております、平成25年3月の『次世代エネルギービジョン』の策定の際に多くの市民から寄せられた「街灯が少なく夜が暗い」（43.3％）という困りごとに対して、本市では、市内企業（18企業）や学校（2校）と連携して“メイドイン薩摩川内”のLED灯の開発・製造に取り組んできました。この独立電源型LED灯を市内に設置しており、久見崎町には、久見崎公園（4基）、旧滄浪小学校（1基）、滄浪地区コミュニティセンター（1基）に設置しています。 独立電源型LED灯だけでなく、通常の街路灯も含め、市全体のバランスを鑑み市民の皆様のご要望を基に関係機関と調整し検討して参ります。
8	①鹿児島市郡山にあるスーパー銭湯「スパランド裸・楽・良」のような健康促進的な宿泊施設の誘致 ②九州電力みやま寮の移設（自治会員でもあるので、身近に交流ができるよう近くに住んでもらいたい。） ③蓄電池開発研究所 ④豊富な水産資源を活かした展示見学施設及び魚の消費を推進する為、大学等と料理の研究所 ⑤シラスウナギの完全養殖研究施設 ⑥物流センター等ができた時の川内港からのアクセス道路の整備 ⑦柳山アグリランドと協働で「少年自然の家」の様な合宿所や遊び場 ⑧介護施設などの誘致	①～⑧いただいたご意見については、ビジョンへの反映や関係機関との調整を検討していきたいと考えております。 ①、⑧健康福祉や地域住民等が安全・安心に生活するにあたり必要な機能であると考えております。No.5同様に、地域活性化の一連の動きや定住人口の増加から、これらの施設の誘致の可能性を高めていきたいと考えております。 ②、⑦必要性、有効性等総合的に検討し、望ましい場合は関係機関と調整して参りたいと考えております。 ③～⑤本ビジョンの基本方針には再生可能エネルギーを取り入れた21世紀型産業の育成を記載し、また、5つの研究テーマに「食」を位置づけております。いただいた御意見については、ビジョンへの反映を検討していきたいと考えております。
9	①夢のある話、ありがとうございました。 でも考えてください。都会でさえ、道路網（私鉄等）を整備してから、工場、住宅等を誘致します。せめて高速道路までのアクセス道路を恥ずかしくないように整備してください。また、その上川内川の両岸を片側通行道路として使用するようにする。景観もすばらしいものになります。20～30年先を考え、堤防工事を備えながら行う道路が通行止めになるようなことがなくなる。道路も上がるし堤防も強靱になる。 ②また、誘致失敗の場合アウトレットみたいな商業施設でも誘致する。（10～20年でできない場合） ③でも、原発の産業処理場だけは避けてください。寄田地区のおいしい水は守ってください。 ④原発のウランの研究等（エンドレスの（プルサーマル））はかまいません。何回も発電し限りなく弊害をなくすようにする。 ⑤また、原発の排水（熱い水）を利用してくだもの等の栽培等をして（ハウスの中を温めて）から、海に流すようにする。フルーツ園を作る。日本一の規模にする（小さいのは不要）。海水も冷めた水なら有害にならない。フルーツ研究所（熱帯）を作る。（くだもの狩りもできるし、食もできるようにする）	①～⑤いただいたご意見については、ビジョンへの反映や関係機関との調整を検討していきたいと考えております。 ①高速道路までのアクセス道路の整備・維持管理についても並行して検討する必要があり、関係機関との調整等を行ってまいります。「川内川の両岸を片側通行」についてはご意見として承ります。 ②ご意見として承ります。 ③原子力発電の産業処理場の立地は想定していません。 ④みらいゾーンでは、ウランやプルサーマルに関するものは想定していません。 ⑤本ビジョンの5つの研究テーマに「食」を位置づけております。原子力発電所からでる温排水の利用については、想定していません。
10	本案については、下記の疑問点がありますので考えをお聞かせください。 ①分譲宅地ゾーンに設定されている地点の海拔は2m程度と思われますが、南海トラフ地震の際に東シナ海で起こり得る津波の高さが5m程度と云われるなかでは浸水の危険性が高いと思いますが、購入希望者があるのでしょうか？又その対策はどのように考えられていますか？ ②川内港の後背地として活用することは、12フィートコンテナを積載したトレーラーを運行するには脆弱な橋を2か所経由し、幅員ギリギリの交差点で対向車がある場合は離合待機を余儀なくされるルートの現状では、利用したいと思う企業があるのでしょうか？ ③臨海工業団地として活用するには、最近の局地的集中豪雨があった場合に強制排水できるポンプの設計量見直し、津波や高潮による浸水の危険性を排除するための方策が必要だと思われますが、どのように考えられていますか？	①鹿児島県津波浸水想定によると、久見崎地区は4.7mの津波に対して浸水しない想定となっております。また、計画では宅地ゾーン及び多目的ゾーンの高さは標高3.5～4.8m、工業ゾーンは8.5～14.0mの予定となっており、それぞれ3.0m以上の盛土を行う予定であります。 ②周辺環境の整備についても並行して検討する必要があり、関係機関との調整等を行って参ります。 ③みらいゾーン区域内の排水については、下流河川への流出調整の施設を計画している。ポンプ設置及び高潮対策等については、国等の関係機関と、今後、協議調整してまいりたいと考えています。

■川内港久見崎みらいゾーン産業立地ビジョン（案）に関するパブリックコメントの結果について

No.	意見等の内容	回答内容
11	①川内港久見崎みらいゾーン産業立地ビジョンの全体像について 産業立地の方向性については、当市に立地する企業としてシナジーも十分に期待されるものとなっており、社会経済の動向にも合致した素晴らしいものであると感じる。 特に、循環経済への転換についての認識（3-3）、循環素材ライブラリー機能（5-2）、循環素材・バイオ素材を活用した先端機能研究（5-3）、市民発イノベーションラボ機能（5-4）などは、弊社が近年薩摩川内市●●町に開設した●●●●（施設名）のコンセプトとの親和性も高く、連携したいとの思いを強くした。 ○懸念 ビジョンを拝見しての懸念は下記2点。 ②本件ビジョンの実行にあたり、官民連携の合議体たる薩摩FCがロードマップ中心的な役割を担うという体制についての懸念 ⇒共同体による合議体制は調整の機能は果たすが、リスクをとりスピード感をもって事業開発するにはそぐわない場合が多いため、当ビジョンが想定している官民連携事業体である薩摩FCはあくまでもビジョンの策定までとし、実際には先端研究施設の誘致と運営までを公的資金で支援し、その先の実践はそこから派生する生態系を信じて、待つ姿勢が重要なのではないか。なお、鶴岡サイエンスパークにおいては「ヤマガタデザイン」社のような存在が自律的な財務基盤をもって地域に主体的に取り組んでいる。※研究機構である九州大学芸術工学院にはあくまでも研究面での自由な実践を期待し、その自由な挑戦の中から当該エリアの可能性が可視化されていくことを期待したい。 ③薩摩川内市全体として、当ビジョンで掲げるテーマを推進する根拠が存在しないこと ⇒創業以来、12年にわたって循環産業を営む弊社では、2014年に貴市に対して薩摩川内市環境未来都市構想を提案したが、当時の担当者氏に受け取っていただくことはなかった。第2次薩摩川内市総合計画においても、サーキュラーエコノミーに対する記載がないことから、市政全体の中で当ビジョンがどう位置付けられ、かかる財政負担の根拠を明示いただく必要があるのではないかと考える。	①ご意見として承ります。 ②ご意見にあるように研究機関や民間企業、地域住民などの市民が有機的に繋がり発展することを目指しております。運営体制については、いただいたご意見も参考とさせていただき整理して参ります。 ③令和2年度を始期とする第2次薩摩川内市総合計画後期基本計画において、市が取り組むこととした27の施策とSDGsに掲げられた開発目標との関連付けを行い、市としてSDGsの実現に向けた取組を進めることとしています。川内港久見崎みらいゾーンにおける取組は、次世代産業モデル「循環経済」を中心とした新しいまちづくりではありますが、SDGsの理念に合致するものとなっています。また、個別の施策として、政策Ⅲ：産業振興のうち、施策2：地域の強みを活かしたビジネス展開と連携による商工業の振興において、川内港久見崎みらいゾーンの開発を進める旨、記載しているところです。